

報告日 令和7年6月21日

報告回次 2日目

令和7年度 地域情報化アドバイザー制度活用報告書

地域情報化アドバイザー制度の活用実績について、下記のとおり報告します。

記

1. 申請団体情報

1-1. 申請団体

団体名	静岡大学情報学部			代表者名	小西 達裕
担当者部署(属性)	その他	担当者部署名	地域連携推進室	連絡先電話番号	053-478-1533
担当者役職	准教授	担当者氏名	藤岡 伸明	連絡先E-mail	
住所	4328011 静岡県浜松市中央区城北3-5-1				

1-2. 推薦団体（「区分」が「協議会」または「NPO・商工会・大学等」の場合のみ入力）

団体名	浜松市	連絡先部署	広聴広報課		
担当者氏名	植平 真実	連絡先電話番号	053-457-2021	連絡先E-mail	

1-3. 支援を求める内容

支援方法	具体的課題への支援	事業名	アイデアソン・データソン		
概要	オープンデータの利活用をテーマとするアイデアソン・データソンにおけるファシリテーション				
支援を求める分野	人材（DX推進のための機運の醸成） 人材（DXに関する知識習得・研修・育成） オープンデータ 防災 教育情報化／情報教育				

2. 地域情報化アドバイザー派遣実績

2-1.

対応日・時間	期日・支援内容の変更あり	受付番号	変更後の派遣日	変更後に実施した支援内容	実地/オンライン
	無				
	派遣日予定日（申請書より）	支援内容（申請書より）	開始時刻	終了時刻	内休憩時間（分）
	令和7年6月21日	支援・助言&フォローアップ(実地)	10時00分	18時00分	60
				活動時間（分）	420

2-2.

派遣場所	会場名	浜松復興記念館	最寄駅	浜松駅
	所在地	静岡県浜松市中央区利町304-2	最寄駅からの交通手段	徒歩

3. 派遣アドバイザーに対する評価と要望

支援を受けたアドバイザーに対する評価をお願いします。

アドバイザー	市川 博之				
評価	大変良い				
上記評価の理由（どのようなところがよかったか等詳細に）	6/21のデータソンは、浜松復興記念館にて、静岡大学の学生22名（うち情報学部生21名、他学部生1名）、一般市民2名（うち一般社団法人シビックテックラボのスタッフ1名、民間企業1名）、浜松聖星高校の生徒1名の計25名の参加者を集めて実施された。午前中は市川氏が講義形式でTableau Publicの使い方（発展編）とダッシュボードの作成方法を教授し、6/7のアイデアソンで形成した6つのグループのオープンデータ活用アイデアを具体的なデータビジュアライゼーション（インタラクティブグラフ、データマップ、インフォグラフィック等）に落とし込むための準備が行われた。午後は各グループがデータビジュアライゼーション制作を中心に最終発表の準備を行い、16:00から最終発表を行った。市川氏は、午前中の講義と午後のグループワークにおいて、参加者がつまづきやすいポイントを踏まえながら巧みに指導を行っていた。特に、データビジュアライゼーションの制作そのものが目的にならないよう、なぜ／何のためにデータを可視化するのかという点を繰り返し参加者に問いかける姿が印象的だった。最終発表に対するコメントでは、解決しようとする社会課題とデータビジュアライゼーションの関係が明確であるか否かを中心に、各グループの良い点と課題を指摘していただいた。				
アドバイザーへの要望事項	特になし。				

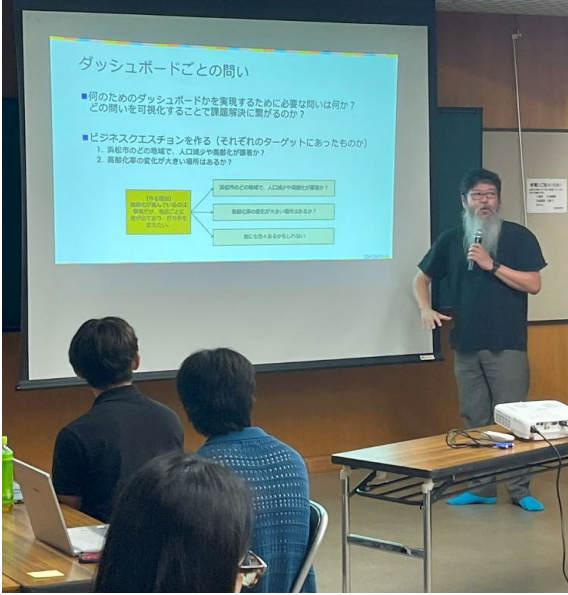
4. 依頼内容及び支援を受けたことによる成果・効果

4-1. 支援を受けた対象者

属性	属性（職員、一般、企業等）について【自由記述】		合計人数	25人
	自治体職員	住民	企業・団体	その他(学生など)
人数	0	0	2	23

4-2. 支援を受けるにあたって目指した成果と実勢に支援を受けたことで改善又は解決した成果・効果

事業の課題・問題点（具体的にご記入下さい）	今回実施したアイデアソン＆データソンでは、大学生を中心とする若年層の目線から、防災に役立つオープンデータ活用のあり方を探っている。しかしながら、大学生の多くは防災意識が低く、オープンデータに関する知識もあまりないため、まず防災・災害対策やオープンデータの基礎知識を身につけ、どのようなデータが防災・災害対策に役立ちうるかをしっかり考える必要がある。
支援により目指す成果（具体的にご記入下さい）	2日目のデータソンでは、1日目のアイデアソンで創出されたオープンデータ活用アイデアを、具体的なデータビジュアライゼーション（インタラクティブグラフ、データマップ、インフォグラフィック等）に落とし込むことを目標とした。これにより、参加者がTableau Publicなどを用いてオープンデータを加工するスキルを身に付けることをめざした。

アドバイザーに支援を受けた内容 (具体的にご記入下さい)		1日目のアイデアソンに引き続き、参加者が利活用可能なオープンデータを多数ご教示いただいた。全国レベルだとe-Stat、RESAS、自治体レベルだとふじのくにデータカタログや自治体ウェブサイトの公開データ、そして浜松市が持つオープンデータなどについて、丁寧にご説明いただいた。また、これらのオープンデータをTableau Public等のBIツールに読み込んでデータビジュアライゼーションを制作する技法について教授していただいた。	
支援を受け改善又は解決された内容 (具体的にご記入下さい)		今回のアイデアソン＆データソンに参加するまで、参加者の大半はTableau Publicの使い方を知らなかった(そもそもその存在すら知らなかった者も多い)が、市川氏の講義・指導を経て多くの参加者がTableau Publicの基本的な使い方を理解し、オープンデータを読み込んでデータビジュアライゼーションを制作できるようになった。	
具体的な成果物		最も当てはまるものをリストより選択下さい。	⑦その他
		25名の参加者が、関心を共有する6つのグループに分かれて防災・災害関連の地域課題に注目し、その地域課題の分析と解決に寄与しうるデータビジュアライゼーション(インタラクティブグラフ、データマップ、インフォグラフィック等)を制作した。2日目(データソン)の成果は各グループが制作したデータビジュアライゼーション、オープンデータをTableau Public等に読み込んでデータビジュアライゼーションを制作するスキルの習得、そして防災に対する意識と知識の向上である。こうした成果につながった要因は、市川氏の指導力ならびに使いやすいデータビジュアライゼーションツールであるTableau Publicを選び、集中的にこのツールの使い方を指導した市川氏の判断であると考えられる。	
改善又は解決されなかった内容 持ち越しとなった内容 (具体的にご記入ください)		2日目のデータソンを通じて、オープンデータを用いてデータビジュアライゼーションを制作するスキルを習得する参加者が多かった。しかし全員が十分なスキルを習得できなかったわけではなかった点は反省すべきである。また、時間が足りないこともあり、データビジュアライゼーション制作が目的化してしまい、分析・解決しようとした地域課題についてじっくり考えることができなかったグループも散見された。	
アンケートの内容と分析結果		講演・セミナー又は個別の事業支援の実施にあたりアンケートを行った場合は、その内容と分析結果についてご記入下さい。(EXCELやPDFでの分析結果を添付されても結構です。) アンケートを行わなかった場合はその理由をご記入下さい。	
		データソン終了後にイベントへの満足度を問う参加者アンケートを実施した結果、ほぼ全員がアイデアソン＆データソンに満足しているとの回答を得た。特に、2日間で集中して取り組む点や、学生と学外参加者が一緒になってアイデア出しやグループワークに取り組む点を好意的に捉える回答が多く見られた。一方、2日間では時間が足りなかったことを残念に感じる回答も一定数見られた。	
4-3. 今後の計画		最も当てはまるものをリストより選択下さい	⑤その他
		同様のアイデアソン＆データソンを毎年度実施する予定である。本イベントの参加者がアーバンデータチャレンジやCOGといったコンテストに出場し、コンスタントに優秀な成績を収められるようになることをめざす。	
4-4. 事業の最終的な目指す姿		本イベントの短期的目標は、①参加者の防災意識とオープンデータ活用能力を向上させることである。さらに、イベント中に考案した課題解決策やオープンデータ活用方法をそのまま眠らせるのではなく、②学外のコンテストに出場してさらに発展させたり、③地域社会に発信したりすることも重要な目標である。本事業の最終目標(長期的目標)は、(a)オープンデータを活用して防災に関わる地域課題の発見・分析・解決に寄与できる市民を育成し、地域社会全体の防災意識とオープンデータ活用能力を底上げすること、ならびに(b)本事業で考案された課題解決策を地域社会に実装することにより、地域防災力を強化することである。	
5. 報告書に関しての地域情報化アドバイザーホームページ「派遣事例」への掲載許可			
掲載許可		☐ 掲載可	
なおくその他>を選択した場合、具体的な記入が必要となりますのでご注意ください			
6. 地域情報化アドバイザー支援の様子			
今回の派遣における地域情報化アドバイザーの支援の様子がわかる「写真(JPEG等)」を数枚程度貼り付けて下さい。			
 ダッシュボードについて説明する市川氏①  ダッシュボードについて説明する市川氏②			